

小中一貫教育のPDCAサイクルマネジメント

【取組評価指標(例)】

- 学校評価、各グループ小中一貫教育の振り返り(アンケート等)
- 全国学力・学習状況調査、児童生徒質問紙、沖縄県学力定着状況調査、県版児童生徒質問紙
- 問題行動・不登校等生徒指導上の課題に関する調査など

各中学校グループの取組(例)と市教育委員会の学校支援

月	各中学校グループ・各学校	市教育委員会
4～8月	☐ 校内体制、各中学校グループでの体制整備 ☐ 小中一貫教育全体の確認 ・児童生徒の実態把握 ・「目指す児童生徒の姿」、目標等の確認 ・年間活動計画、共通実践事項の確認 ☐ 諸取組の実施、日常的な情報交換 ◆学校評価(1回目) ☐ 小中合同研修会の実施 (いじめに特化した研修会※1等)	【4月】 ☐ 小中一貫教育担当者連絡会① 【6月】 ☐ 生徒指導主事連絡協議会等における生徒指導実践力を高める研修会の実施 (対象:小中学校生徒指導主事)
9～12月	☐ 諸取組の実施、日常的な情報交換 ◆学校評価(2回目) ◆本年度の振り返り	【12月】 ☐ 小中一貫教育に係る児童生徒の実態の共有 →沖縄県児童生徒質問紙調査から、小中一貫教育に係る項目を抽出し実態把握を行う (小6、中1)
1～3月	☐ 本年度の取組評価、次年度の方針検討等 ・本年度のまとめ、分析、総括 (各種調査等の客観的な分析、改善策の検討) ・次年度計画の検討、決定	【1月】 ☐ 小中一貫教育担当者連絡会② 【2～3月】 ☐ 実践報告書の提出、共有 →学校教育課ポータルサイトで共有

※1いじめに関する講話や協議、グループ内の生徒指導事案や児童生徒の情報交換等

小中一貫教育の推進体制と主な取組内容

各グループ・学校

運営委員会

- ☐対象:校長、教頭、小中一貫教育担当等
- ☐回数:必要に応じ開催
- ☐内容:小中一貫教育に係る諸事項の検討や調整と決定、各校の取組共有、情報交換等

合同研修会

- ☐対象:グループ教職員
- ☐回数:グループの状況に応じて設定
- ☐内容:グループの実態に応じた内容
 例)いじめに特化した研修会
 例)教科等の理論研修会

※合同授業研究会は各中学校グループ裁量

市教育委員会

小中一貫教育担当者連絡会

- ☐対象:小中一貫教育担当等(各小中学校)
- ☐回数:年2回(4月・1月)
- ☐内容:那覇市小中一貫教育の取組について
 小中一貫教育に係る児童生徒の実態共有
 各グループの実践共有、情報交換等

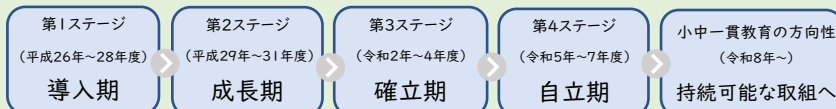


学校教育課ポータルサイトにアクセスすると小中一貫教育の資料等を確認することができます。



那覇市の小中一貫教育

小中一貫教育のこれまでの取組と方向性



那覇市では、これまで「知・徳・体」の調和のとれた教育を推進し、自らを高め、健全でたくましく「生きる力」を備えた児童生徒の育成に努めてきました。一方で、中学校進学時における不登校や問題行動の増加、学習意欲の低下など、さまざまな課題が顕在化したことから、平成24年度より小中一貫教育を導入し、これらの課題解決に向けた取組を進めてきました。

これまでに「導入期・成長期・確立期・自立期」と段階的に取組を進め、小学校と中学校がつながりを意識した教育活動を継続的に展開する中で、全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上や、問題行動の数値における改善が見られるなど、小中一貫教育は一定の成果を上げてきています。こうした取組を積み重ねる中で、現在では、各中学校グループが、児童生徒の実態や地域の特性を踏まえながら、自らのビジョンに基づき、小中一貫教育の取組を自主的に展開しています。

今後は、こうした実践を基盤として、持続可能で実効性のある小中一貫教育の実現に向けて、主体的な取組を一層充実させていきます。これまで積み上げてきた小中の関係性を生かした日常的な連携や、児童生徒・教職員による主体的・自発的な取組こそが、持続可能な教育のかたちに直結するものと捉えています。教育委員会としても、各中学校グループの小中一貫教育が、持続可能な取組として自走していけるよう、今後も引き続き支援してまいります。

小中一貫教育の視点を大切にした取組の具体

学校の取組

取組のイメージはp2～p3に記載

- 「運営委員会」や「合同研修会」を開催し、各中学校グループにおける重点的に育成すべき資質・能力や教育目標等を共有し、「目指す子どもの姿(資質・能力)」及び共通実践事項等を明確に示すこと。
- 「言語能力の育成」、「情報活用能力の育成」、「問題発見・解決能力の育成」の中から各グループの課題に応じて重点的に取り組む内容として1つ以上を選定し、その育成に取り組む。
- 支持的風土づくりの4つのポイントである「安心」「所属」「承認」「自立」の中から、各グループの課題に応じて重点的に取り組む内容として1つ以上を選定し、その育成に取り組む。

各グループ運営委員会の役割

- 小中一貫教育に係る諸事項の検討や調整、決定
- ・グループの方針、「めざす児童生徒の姿」の検討
- ・諸取組や合同研修会の計画、運営
- ・諸取組推進状況の確認や助言、総括
- ・次年度計画の検討(ふり返り、アンケートの分析)
- ※教育計画に意図的、計画的に位置づけ実施する

教育委員会の支援

- 市校長研修会、市教頭研修会等での周知
- 小中一貫教育担当者連絡会の実施
- 各中学校グループの実践の可視化・共有
- 小中一貫教育に係る児童生徒の実態把握を行い、資料を提供し活用を図る。

評価指標(市教委)

評価にあたっては、以下の具体的な指標をもとに、取組の成果と課題を総合的に把握します。

- ☐全国学力・学習状況調査における結果(小学校:全国平均以上/中学校:全国平均同程度)
 - ☐不登校児童生徒のうち、学校内外の機関等と相談、指導を受けている割合(文科省「問行調査」より/8割以上)
 - ☐児童生徒質問紙調査における、小中一貫教育に係る項目の肯定的回答率(例:「学校に行くのは楽しい」など/8割以上)
- これらの指標を通して、児童生徒の変容や学校の取組の成果を継続的に把握し、今後の改善や充実に生かしていきます。

目指す子どもの姿(資質・能力)

「学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力)」の育成に向けて、具体的な取組を推進し、各教科や発達の段階に応じた指導の在り方を考えるなど、指導の工夫・改善を図る。

例:「言語能力の育成」、「情報活用能力の育成」、「問題発見・解決能力の育成」の中から各グループの課題に応じて重点的に取り組む内容として1つ以上を選定し、取り組む。

学力の向上を支える「支持的風土づくり」に向けて、「安心」「所属」「承認」「自立」の4つのポイントを踏まえた具体的な取組を推進し、非認知能力の育成を図る。

例:支持的風土づくりの4つのポイントである「安心」「所属」「承認」「自立」の中から、各グループの課題に応じて重点的に取り組む内容として1つ以上を選定し、取り組む。

「学習の基盤となる資質・能力」で『つながる』

言語能力の育成

情報活用能力の育成

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
中学校	3年 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。	表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かっていくような文章になるように工夫すること。	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。
2年	互いの立場や考えを聞きながら話し合い、結ぶために考えをまとめること。	表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かっていくような文章になるように工夫すること。	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。
1年	話の筋や内容を聞き取り、話し合い、互いの立場や考えを聞きながら話し合い、結ぶために考えをまとめること。	表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かっていくような文章になるように工夫すること。	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。
小学校	6年 5年 3年 2年 1年	表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かっていくような文章になるように工夫すること。	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

解説:国語編「思考力・判断力・表現力等」の形成

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
・表やグラフを用いた統計的な情報の整理 ・電子ファイルの運用 ・情報のシステム化に関わる基礎的な技術の仕組み ・クラウドを構想する仕組み	・目的に応じて考えるための方法等を組み合わせて活用したり、整理したりする。 ・情報や意見に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーションを行うこと。 ・安全、通じやすい表現方法を用いること。	・情報や情報技術により良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする。 ・情報モラル、情報セキュリティの確保等について考え、実践すること。 ・情報技術を用いた生活や学習の場面で、自ら考え、行動すること。 ・情報技術を用いた生活や学習の場面で、自ら考え、行動すること。
・目的に応じて用いた情報や意見を整理すること。 ・図示による表現方法 ・通信ネットワークやマナー	・目的に応じて用いた情報や意見を整理すること。 ・図示による表現方法 ・通信ネットワークやマナー	・情報技術を用いた生活や学習の場面で、自ら考え、行動すること。 ・情報技術を用いた生活や学習の場面で、自ら考え、行動すること。
・キーボードの正しい入力方法 ・通信ネットワーク上のルールやマナー	・キーボードの正しい入力方法 ・通信ネットワーク上のルールやマナー	・情報技術を用いた生活や学習の場面で、自ら考え、行動すること。 ・情報技術を用いた生活や学習の場面で、自ら考え、行動すること。

情報活用能力の体系表例(文部科学省)

問題発見・解決能力の育成

①課題の設定	②情報の収集	③整理・分析	④まとめ・表現
より複雑な問題状況 確かな見通し、仮説	より効率的・効果的な手段 多様な方法からの選択	より深い分析 確かな根拠づけ	より論理的で効果的な 表現内省の深まり
(例) ■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え見通しをもつて計画を立てる など	(例) ■情報収集の手段を選択する ■必要な情報を収集し、蓄積するなど	(例) ■問題状況における事実や関係を把握し、理解する ■多様な情報にある特徴を見付ける ■事象を比較したり関連付けたりして課題解決に向けて考える など	(例) ■相手や目的に応じてわかりやすくまとめる表現する ■学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする など

解説:総合的な学習の時間編「探求の過程における思考力、判断力、表現力等の深まり」

学力の向上を支える「支持的風土づくり」に向けて、4つのポイントでの取組及び非認知能力の育成で『つながる』

具体(例)

非認知能力の育成

自立

自分の良さを生かした目標設定

- キャリアパスポート
- 「か・ふ・や・み」
- 自学自習(家庭学習)

目的意識
・
メタ認知
・
自学自習力



(実践事例) 自学自習のお手本掲示(真嘉比小)

承認

教師・友だち・保護者からの承認・勇気づけ

- 指導に生かす評価
- 個人内評価
- 児童生徒間の相互評価
- キャリアガイダンス

自己肯定感
・
他者理解



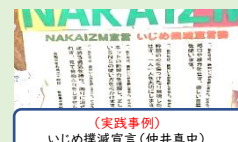
(実践事例) 児童間の相互評価(松川小)

所属

役割・つながりの「しかけ」(絆づくり)

- 自発的・自治的な児童会・生徒会活動
- 合意形成・意思決定に基づく学級活動
- 生徒指導の4つのポイント

主体性
・
協働性



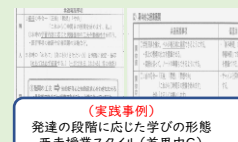
(実践事例) いじめ撲滅宣言(仲井真中)

安心

安全・安心な風土の醸成(居場所づくり)

- 学習スタンダード
- 生活規律
- 共通実践事項

規範意識



(実践事例) 発達の段階に応じた学びの形態 西南授業スタイル(首里中G)

教職員が『つながる』

- ・合同研修会、合同授業研究会(児童生徒の良さや課題の共有)
- ・支援を必要とする児童生徒についての情報交換会(途切れない支援)

児童生徒が『つながる』

- ・児童生徒の交流活動(部活動見学・合唱鑑賞など)
- ・中学校での体験授業、出前授業

学校・家庭・地域が『つながる』

- ・小中一貫だよりの発行
- ・地域行事への参加



(実践事例) 小中合同研修会(鏡原中G)

(実践事例) 小中合同授業研究会(小椋中G)

(実践事例) 会議参加による生徒指導事例の情報共有(真和志中G)



(実践事例) 合同あいさつ運動(神原中G)

(実践事例) 美術作品巡回展示(金城中G)

(実践事例) 体育科教諭による指導(石田中G)



(実践事例) 小中一貫だより(神原中G)

(実践事例) クリーン活動(石嶺中)

(実践事例) 地域行事への参加(城岳小)